



伊奈氏ゆかりの地の3市町長が講演 「伊奈氏ゆかりの地」協定に基づく特別講演を実施

令和6年12月22日、きらくやまふれあいの丘で「伊奈氏ゆかりの地」協定に基づく特別講演を実施しました。当日は、埼玉県伊奈町の大島清町長、埼玉県川口市の奥ノ木信夫市長、小田川市長に地域紹介「わがまちと伊奈氏を語る」を、東京大学名誉教授の佐藤孝之先生に講演「代官頭伊奈忠次と常陸国一発給文書からみる」をそれぞれご講演いただきました。また、展示企画「伊奈忠治と谷原三万石」も同時開催し、盛況のうちに終わることができました。

伊奈氏って、なにもの？

江戸幕府に仕えた伊奈氏は、江戸初期の忠次に始まり、その長男・忠政と次男・忠治に引き継がれ、江戸中期に忠尊が所領を没収されるまで、関東一円で治水工事や新田開発などを手がけた一族です。荒川西遷や利根川東遷などの事業を通じて、土地の生産力を高めるとともに水運を盛んにし、幕府の地方支配を統括する役割を果たしました。

つくばみらい市域の開発を手がけたのは、忠治です。茨城県内有数の稲作地帯「谷原三万石」の基盤は、忠治による開発のおかげで整備されたことで知られています。忠治は、まず

鬼怒川を利根川につなげたのち、鬼怒川と小貝川を分離する難工事を成功させました。鬼怒川と分離したおかげで小貝川は水量が軽減し、「谷原」一帯の開発が進むことになります。山田沼堰（のちの福岡堰）・台通用水・川通用水・中通川など、忠治の指揮で設けられた施設は数多くあります。こうした歴史から、令和3年には、伊奈氏の開発の恩恵を受けた地域が集まり、「伊奈町、川口市、つくばみらい市『伊奈氏ゆかりの地』歴史・文化的交流に関する協定」が結ばれました。



地域の催しで生まれるつながり 伊奈東自治会が新春餅つき大会を開催

1月5日、伊奈東自治会が毎年恒例の新春餅つき大会を開催しました。当日は、地元の方を中心に多くの方が参加し、餅つき体験や勘新太鼓演奏、振る舞われた豚汁・おしるこ・甘酒を楽しみ、小田川市長も餅つきでお手伝いしました。イベントを通じ、地域住民が親睦を深めることで、いざというときに助け合える地域のつながりが生まれます。自治会は、住みよいまちづくりのために、なくてはならない役割を果たしており、市もその活動をサポートしています。

つくばみらいで宇宙を感じよう！ 「SORA-Q ※を使った出張ワークショップ」を開催

1月18日、伊奈庁舎で㈱タカラトミーとのコラボ企画「SORA-Q ※を使った出張ワークショップ」を開催しました。90人が参加したこのイベントでは、㈱タカラトミーと高砂熱学工業㈱による講演会やSORA-Qの操作体験などが行われました。ほかにも、宇宙関連施設・団体の紹介や、シンガーソングライター「宇宙まお」さんの物販など、宇宙に関連する約20のブースを設置。参加者からは「SORA-Qを上手に動かせる自信がなかったけど、思ったより動かして嬉しかった」「イベントを通して、より宇宙への興味が湧いた」といった声が聞かれ、充実したイベントとなりました。



※ SORA-Q：JAXA、㈱タカラトミー、ソニーグループ㈱、同志社大学が共同開発した、世界最小・最軽量の月面探査ロボット